



ピッポ新聞

2003

7

No.177

子どもの本専門店

年間購読料（送料込み）1500円

編集・発行 伊藤俊男

ピッポ

〒424-0886 静岡市清水草薙1-6-3

TEL & FAX 0543-45-5460

 URL <http://www.pippo.co.jp>
 Email pippo@diana.dti.ne.jp

ただいま「古書店歴一年半」

 ネット古書店は、読者の
ニーズに込んでいるか （最終回）

これまでも書いたことですが、もしみなさんが、必要な本や欲しい本が身近で見つからない場合、それを探す一番手っ取り早い方法は、インターネット上で探すことだと思います。これですと、居ながらにして全世界から探し出すことができます。

ある大学の先生の話ですが、これまでは研究に必要な洋書の古書を手に入れるには、出入りの古書店にそれを頼むと、場合によっては半年以上も経って、忘れた頃にその返事がき、「在庫が無い」などという場合すら珍しくなかったそうです。

今では、こんな場合、インターネットを通じて探せば、たちどころに探し出すことができるのです。その意味でインターネット（パソコン）は、古書を検索するのには、実に適したツールだと思います。インターネット古書店の存在は、これからはますます読者に必要とされると思います。

それでは現在、日本のインターネット古書店は、十分に、読者のニーズに込えることができるのでしょうか？

残念ながら欧米の古書店と比べた場合、その点数や、1冊ごとの書誌情報において、「まだ、

まだ、まだ・・・」と言わざるを得ません。ずいぶん見劣りがします。

現在、日本の古書の検索エンジンは、いくつかありますが、主なのは二つだと思います。よくが参加している紫式部の「スーパースource」と「日本の古本屋」です。それと、最近アマゾンジャパンのused bookのコーナー（ピッポ古書クラブも、ここへ3月から出品をしています）なども有ります。アマゾンの場合は今のところ、古書というよりもリサイクル本の程度の良いものということだともおもいますが・・・。

試しに貴方の探している本を、この検索エンジン呼びだして、検索してみてください。リサイクル本的な本以外、特に専門書や趣味などの分野は、ヒットすることは希ではないでしょうか。

これはまだまだ古書のデータ数が不足していることが大きな理由だと思います。それは日本のネット古書店が、まだ歴史が浅いことを物語っているのです。（勿論それだけではありませんが、その理由は後述します。）

たとえば、「ハリーポッター」と打ち込めば、これは必ずヒットします。（これはリサイクル本です）それにしても、この「ハリーポッター」は、後1〜2年したらブックオフで百円で売られるでしょうが、その頃は、多分読者からは見向きもされないことでしょうね。でもね、これが百年後には値段がつくのです。古書とはそういうもののなのです。

ぼくは古書店を始めて、ちょっと気付いたことですが、ベストセラーなどと言われて、新刊書

店でもてはやされている本のほとんどは、その1〜2年後には中古本屋では二束三文で扱われるという事です。たくさん出回ったことも理由の一つでしょうが、それよりも、内容がそれだけの価値が無い(くだらない)ことを物語っているのだと思います。ベストセラーになった理由は、その本の内容が優れているからでなく、メディアがとりあげた、あるいはみんなが読むからという日本人特有の「わっ!」と群がる一過性や横並び性が案外大きな理由かもしれないね。

閑話休題

ぼくの専門分野の子どもの本について少し書いてみます。

子どもの本の古書は、これまでは明治・大正・昭和初期などの限られた時代と作家のもの以外は、古書の領域では余り問題にされてこなかったのです(これは今でもあまり変わりません)。特に戦後出版されたここ四十年〜五十年位の子どもの本を積極的に古書として評価してこなかったのですね。

だから、子どもの本は古書店では隅っこにちょこんとある程度なのです。子どもの本の古本屋での扱いはこんなものですが、新刊書店だって子どもの本が、ちゃんと扱われているとはいえないものね。

それ故に、読者が子どもの本を処分する場合、多くの人が古紙回収に出したり、ゴミとして処分しているのではないのでしょうか。それではもったいなく思う人が、知りあいにあげたり、せいぜい学校のバザー

に出したり、最近ではブックオフへ売る程度ではないでしょうか。

ぼくは強く訴えたいのですが、古本屋は子どもの本を二束三文で扱うのではなく、ちゃんと評価して(もつと高く買い入れる)扱えば、古本の世界にもつと子どもの本が流れてくるようになるのではないのでしょうか。(少なくともぼくは、そうしています)

そうすれば、まだまだ消えてほしくない子どもの本が、古書として流通が可能になり、子どもに手渡すことが出きるのです。

ぼくは声を大にして言いたい! 廃品回収やブックオフへ子どもの本を持っていく前に、まずピッポへもて来てください。ピッポで断つただけをブックオフへ持つていくように! (これが言いたかったのだ)

ネット古書店の問題と今後

さて、ぼくは、読者のインターネット古書店へのニーズは、今後ますます高まると考えています。ですから、利用者(読者)から信頼される存在でなければならぬと思っています。ところが、信頼を得るのに、現在、幾つかの点で、問題があるように思っています。

ネット上はバーチャルですから、読者は、実物の本を手取ることはできません。せいぜい画像で表紙などを見ることが出来る程度です。読者は実際には手に取ることで、できない本を買ってくれるのです。

それ故、古書店はその本の詳細な情報を読者に提供しなければならぬのです。と

ところが、未だ日本のネット古書店は、そのことが十分ではありません。

ぼくは欧米の古書店から絵本を購入していますが、この点、欧米の古書店はずいぶん進んでいます。

そこには、まずその本の来歴がのべられてい、装丁の内容が示され、如何にその本が良い本かが語られています。つぎに、その本の欠点(汚れや書き込み等々)も分かりやすく表示されているのです。

例えば、ある絵本の初版本をほしいとします。場合によつては何冊もの初版本が出てきます。値段もまちまちです。しかし、何故、同じ初版本なのに値段が異なるのかもそれぞれの説明文(書誌情報)や本の状態の記述を読めばそれなりに納得できます。

それに、そこからは、その本に対する古書店の熱意までもが伝わって来るのです。

では日本のネット古書店の場合はどうでしょう?

値段の違いは分かりますね。本の状態も少しは分かります。(でもこれも本屋によつて判断や表現がバラバラです) その他に何が分かりますか?

ひどいものになると、出版年月日や、版元すら表示のないものも有ります。これでは読者は不安だと思えます。

同じ本でありながら、値段の異なるのは何故なのかを、何処を見比べれば読者は理解できるのでしょうか?

ぼくも決して自慢できる内容とは言えませんがね。(これ自省の意味もあります) 一件一件詳しく情報を表示するのは確か

に手間暇がかかってしまいますが・・・。
将来に渡って信頼を得ていくためには必要
なことだと思います。

それともう一つ大切なことがあります。
そこに表示される情報は、正確でなければ
いけません。

本の状態について、多くの場合はアップ
ロードする時に、一度本をチェックします
が、見落としたりして、書き込みがあるに
もかわらずそれを表示しなかったことが
あり、お客さんから苦情をいただいたこと
が有りました。こちらの手落ちですから、
返品なり値下げをして了解をしていただき
ました。

こういう点も注意しなければなりません
が、品切れや絶版で無い本を品切れと表示
する事は許されません。

しかしこういう誤った表示を見受けるこ
とが有ります。こんな事を繰り返してい
たら、ネット古書店は読者から見放されて
しまうでしょう。

もう一つ危惧していることがあります。
それは、最近ヤフーのオークションの絵本
のコーナーで多く見かけるのです。絵本を
何十冊か纏めて売るといことが流行つて
いるようです。全集や同じシリーズなどな
ら理解できますが、バラバラな本を纏めて
売るといのは一種の抱き合わせ販売だ
と思うのです。

本は1冊1冊選んで買うのが当然と認識
している人には、異様なことと写るの
ですが、みなさんはいかがでしょう？
こういうのはちょっと荒っぽい売り方だ

し、買い方だと思います。こんな事も将来
的にはネット古書店の信頼を失わせる要因
になるのだとぼくは考えています。

ネット古書店は増えていきます。また、こ
れを利用する読者も増えていきます。それは
古書店にとっては可能性があるからです、
読者には利用価値が有るからです。

でもそれは、古書店が利用者のために、
客観的に比較検討ができる、正確で詳しい
本の情報を提供することに拠つてのみ、お
互いに信頼を築くことができるのだと思
います。ここが、欧米の古書店と比べて遅
れているのです。

上手くまとまりませんでした。ただ
今古書店歴1年半」はこの辺で綴じること
といたします。ぼくはネット古書店の必要
性と将来性を信じています。(おわり)

ね、この本読んだ？

『まねっこねこちゃん』(長新太・作 1
575円 文溪堂)



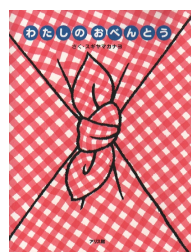
まねっこねこちゃんは池のそばを通ると、

池にいるザリガニ
に一部が変身しま
す。ページをめく
るごとにねこちゃ
んは登場するもの
に変身します。次
にどんなのへ変

身するか、子どもの期待は高まります。で
もね、変身は疲れるので、ねこちゃんは時々

おやすみします・・・。ベネッセから出
ていたのの復刊です。

『ぼくのおべんとう』『わたしのおべん
とう』(スギヤマカナヨ・作 各924円
アリス館)



この2冊の絵本は対になっています。青
の表紙が男の子のお弁
当、赤色のが女の子の
お弁当です。それぞ
れお母さんがつくつ
くれたお弁当を紹介
(読者に)しながら食
べるのですが、途中ミ
トボールと唐揚げを交
換するのです。この2
冊作者と編集者が、手
作り弁当に思い入れがあつてできたのだそ
うです。

『このゆびとまれ』(平出衛・作 945
円 福音館書店)

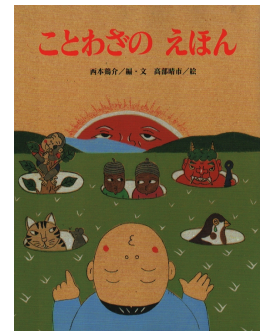
女の子が野原でチヨウチヨを見つめます。



一緒に遊びたくて「こ
のゆびとまれ！」てゆ
びをだしたら、ウサギ
さんが飛び出してく
ましたよ。今度はサルが
出てきてしまった。チヨ
ウチヨとまってくれ
るかな・・・。

『ことわざのえほん』(西本鶏介・編・文

高部晴市・絵 1155円 鈴木出版
言葉の乱れなどが言われて久しいが、最



近は「ことわざ」
や「名作の一部
調子の良い箇所」
などを収録して、
声に出して楽し
むという本が人
気がある。これ

もその一冊。ことわざの説明を絵と文で子
どもにも分かりやすく解説し、そのことわ
ざをどう使うかの事例も示している。同時
に「はいくのえほん」(西本鶏介・編・文
清水耕蔵・絵 も出版された。2冊とも
親子で一緒に楽しめます。

『親子で楽しむ ストロー工作』(有木昭
久・作 新開孝・写真 1575円 福音
館書店



これからの時季、冷たいものを飲む機会
が増えます。そ
のときに使うこ
との多いのがス
トローです。こ
の本はそのスト
ローと、身近に
あるちよつとし
た材料を使っ

て作る工作のいろいろを紹介しています。
笛や風車など全部で45種類も！夏休みに親
子で挑戦してみたいいかがでしょう。

インフォメーション

岩波の子どもの本刊行五十周年記念

今秋(9月23日) 20点復刊

書名	作者	刊行年	
みんなの世界	マンロー・リーフ・作	1953	1
山のクリスマス	ルドウィヒ・ベーメルマン	1953	2
どうぶつ会議	エーリヒ・ケストナー	1954	3
百まいのきもの	エリノア・エスティーズ	1954	4
まいごのふたご	アイネス・ホーガン	1954	5
どうぶつのこどもたち	サムイル・マルシャーク	1954	6
おそばのくきはなぜあかい	石井桃子	1954	7
もりのおばあさん	ヒュー・ロフティング	1954	8
やまのこどもたち	石井桃子	1956	9
りすとかしのみ	坪田譲治	1956	10
やまのたけちゃん	石井桃子	1959	11
うさぎとおんどりときつね	ウラジミール・V・レーベデフ	1977	12
みつけたぞ ぼくのにじ	ドン・フリーマン	1977	13
アイスクリーム かんながかん なをつくったはなし	マルシャーク・文 レーベデフ・ 絵 うちだりさこ・訳	1978	14
こねこのおひげちゃん	マルシャーク	1978	15
あなはほるもの おっこちると こ	ルース・クラウド・文 モーリス・ センダック・絵	1979	16
おつきさんどうしたの	バーバラ・クーニ・絵	1979	17
きょうりゅうのかいかた	くさのだいすけ・文	1983	18
川はながれる	アン・ランド・文	1978	19
どうぶつえんのピクニック	アーノルド・ローベル	1978	20

★今月の「ばあやのおはなし」は7月26日(土曜日)午後2時から
ピッポで開催します。

編集後記

さあー夏休みだー嫌なこといっぱいあるけどさ、そんなこと気にしない
で 子どもは夏休一杯遊んで大きくならなくちゃね！